# 相談室便り「架け橋」

第４号（2021年10月）
昭和町立押原中学校

## 男の子と女の子で異なる道徳的判断の基準－ある興味深い実験より

先日発達心理学の入門書を読んでいましたら、次のような興味深い文章に出会いました。それは、キャロル=ギリガン（1937～）という心理学者が、11～15歳のアメリカの子どもたちに行った実験結果についての報告でした。

ギリガンはまず、次のような話を子どもたちにしたそうです。

厳しい寒さをしのぐため、一匹のヤマアラシがモグラの家族に冬の間だけ一緒に洞穴のなかにいさせてほしいとお願いしました。モグラたちは、ヤマアラシのお願いを聞き入れてくれました。けれども、その洞穴はとてもせまかったので、ヤマアラシが洞穴のなかを動きまわるたびに、モグラたちはヤマアラシの針に引っかかれてしまうことになったのです。ついにモグラたちは、ヤマアラシに洞穴から出て行ってくれるようにとお願いしました。ところが、ヤマアラシはこのお願いを断りました。そして言ったのです。「ここにいるのが嫌なんだったら、君たちが出て行けばいいじゃないか」

ギリガンがこの話の感想を求めたところ、男の子たちは「その洞穴はモグラのおうちなんだから、ヤマアラシが出て行くべきなんだ」と、「正義の倫理」という観点からこのジレンマを解決する傾向が強かったのだそうです。しかしそれとは対照的に、女の子たちは、みんなが幸せで快適になれるような解決法を探す傾向にあったということです。たとえば、「ヤマアラシの身体を毛布で覆ってあげたらいいのよ」という意見のように、「ケアの倫理」と表現されうるような観点からこの問題についての意見を述べるものが多かったというのです。

男の子的な視点からみると、他者との関係性を重視する女の子的な関心は、強さとしてではなく弱さとして映ってしまうことになるかもしれません。しかしギリガンは、他者へのケアは道徳性発達において大変重要な要素になっていると考え、このような「ケアの倫理」という観点からみると、むしろ男の子の道徳性は女の子よりも遅れて発達しているといってもよいことになるかも知れない、と述べています。

普段の生活のなかでは、私たちは男性であろうと女性であろうと、そのときどきに合わせて道徳的判断をしているのですが、こうした道徳性の発達に関わる性差の問題は大変興味深いテーマであると思います。

さらに深く考えるならば、性差を超えた人間の普遍的な道徳性のあり方について議論することができるかも知れません。

イギリスの哲学者Ｊ.Ｓ.ミル（1806～1873）は、「人間の幸福は快楽を得ることにある」と述べましたが、彼は感覚的快楽よりも精神的快楽に人間的な意義を見出し、利己的快楽よりも利他的快楽、すなわち自分以外の他の人のために献身的に活動しているときに、自らの内面に生まれる満ち足りた気持ちに、人間の幸福と尊さの根拠を見出しています。

子どもたちの道徳性の陶冶にあたっても、正邪の判断力をしっかりと身につけさせると共に、他を思いやる「共生」の倫理をしっかりと伝えることの重要性を改めて実感します。

## 10・11月のスクールカウンセラー出勤日

| | |
|---|---|
| 10月 | １日(金)・６日(水)・８日(金)・13日(水)・20日(水)・22日(金)・27日(水)<br>29(金) |
| 11月 | ５日(金)・10日(水)・12日(金)・18日(木)・24日(水)・26日(金) |

＊「カウンセリング申込書」は裏面に印刷してあります。どうぞご利用ください。

キリトリ

# カウンセリング申込書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 生徒学年・組・氏名 | 年　　組 | 氏名 | |
| 相談希望日 | 第1希望　　月　　日（　　）<br>時間　　：　　～　　： | 第2希望　　月　　日（　　）<br>時間　　：　　～　　： | |
| 相談希望者 | 生徒本人 ・ 保護者（　　） ・ その他（　　）<br>（いずれかに○印を付けてください。本人以外の場合は、カッコ内に続柄をご記入ください。） | | |
| 日中連絡先電話番号 | ―　　― | | |
| あらかじめ連絡しておきたいこと | | | |